

# こんにちは 魚沼市議会です



平成30年第1回定例会 No.60



## CONTENTS

定例会・市長行政報告・補正予算	2
議案賛否の状況	3
平成30年度会計別予算	4~5
一般質問	6~13
常任・特別委員会報告	14~16
平成30年度 会計予算審査特別委員会報告	17~19
市民の声・あとがき	20

[表紙写真] 湯之谷小学校入学式

## 議会報告会を開催します

この議会だよりをもとに、定例会の審議内容や結果について報告を行います。また、皆様から市政についてのご意見をお聞きします。大勢の方のご参加をお待ちしています。

時間はいずれも午後7時から8時40分です

日時	地区	会場
5月7日(月)	入広瀬地区	穴沢ふれあい館
	守門地区	守門公民館(守門庁舎内)
5月8日(火)	広神地区	吉原ふれあいセンター
	湯之谷地区	大下自治会センター
5月9日(水)	小出地区	小出北部公民館
	堀之内地区	原ふる里会館

※当日はこの議会だよりをお持ちください。

〈発行責任者 議長 森島 守人〉 広報編集特別委員長 高野 甲子雄 副委員長 星野 みゆき  
委員 星 直樹 浅井 宏昭 大桃 俊彦 佐藤 敏雄

## 第1回定例会報告

平成30年第1回（2月）定例会が、2月22日から3月20日までの27日間の会期で開催されました。市長からの所信表明もあり、平成30年度魚沼市一般会計予算、特別会計予算、企業会計予算、各補正予算が審議され可決となりました。  
 一般質問は、3月9日と12日の2日間にわたって、16人の議員が登壇し、市政に関して質問しました。  
 3月20日の最終日には全36議案のうち35議案が可決され、1議案が否決となりました。  
 ※議案賛否の状況は3ページをご覧ください。

## 主な市長行政報告

### 2月22日分

- 魚沼市豪雪災害対策本部の設置と対応について  
 2月13日に「魚沼市豪雪災害対策本部」を設置した。主に高齢者世帯等を対象に屋根雪除雪や住宅の門払いを行う「軽度生活支援事業」の対象世帯を拡大し、市内全域で支援が必要な世帯の除雪を進めることとし、周知するとともに関係予算を計上した。また、北越銀行様、第四銀行様及び大光銀行様より見舞金をいただいた。
- 「魚沼市斎場建築工事等監理業務委託に係る違法公金支出・不当利得返還請求控訴事件」の結審について  
 2月9日付けで最高裁判所から「本件上告を棄却し、上告審として受理しない」との決定がなされ、結審した。
- 二市一町新ごみ処理施設建設予定地について  
 南魚沼市国際町にある、国際大学所有の国際大学自然公園内の土地が最適であるとして、今後、地権者である国際大学や地元集落等への説明、協議を行い、理解をいただく予定である。
- 小出郷図書館利用物件の取得について  
 現在、小出郷図書館として賃借しているオガワビルの今後について協議を行ってきたが、立地条件のよさや中心市街地の活性化策などを踏まえ、その土地と建物を売却いただくことで合意した。
- ご当地ナンバープレートの導入に関する市民アンケートの実施について  
 十日町市、南魚沼市、津南町及び湯沢町とともに、新たな地域名を表示したナンバープレートの名称を「雪国魚沼」とすることでパブリックコメントを実施したが、湯沢町を除く3市1町で住民アンケート調査を実施することとした。
- 塩沢信用組合との包括連携協定の締結について  
 地域経済の発展に資する取り組みにより、さらなる魚沼市の発展を図ることを目的として、2月20日に包括連携協定を締結した。
- 東京農業大学との包括連携協定の締結について  
 地域産業の振興や就職及び就農支援による人材育成など相互に協力することを目的として、包括連携協定を締結した。

### 3月9日分

- 豪雪災害対策本部の解散について  
 市内の降雪や積雪状況が深刻な状況を脱したことなどから、2月28日に災害対策本部を災害警戒本部に移行した。その後、大雪の恐れがなくなったことから、3月8日に本部を解散した。
- ご当地ナンバープレートの断念について  
 2月16日から28日に3市1町でアンケートを実施したところ、「長岡ナンバーのままがよい」とする意向が69.64%を占めた。これを受け、新ナンバープレートの取り組みを断念した。

### 3月20日分

- 「魚沼市斎場外構等整備工事廃棄物処理費に係る違法公金支出金返還等請求事件」の棄却について  
 3月7日に東京高裁で「原告らの訴えを棄却する」旨の判決があった。
- 小中学校の公衆無線LAN整備完了について  
 市内の避難所となっている小中学校の公衆無線LAN整備が完了し、4月1日から供用開始する。認証手続を行っていただくことで、誰でも無料でインターネットを利用することができる。また、タブレット端末やプロジェクターも整備し、新学期から利用開始される。

## 第1回定例会補正予算

会 計 名		補正前の額	補正額	計	主 な 内 容
一般会計（第7号）		284億8,240万円	△4億600万円	280億7,640万円	ふるさと寄附金の増加、豪雪に伴う要援護世帯への除雪支援経費、道路除雪経費、国の補正予算に伴う事業費の追加及び事業実績見込みによる調整など
国民健康保険特別会計（第3号）	事業勘定	44億300万円	△1億4,700万円	42億5,600万円	療養給付費、保険財政共同安定化事業拠出金等の実績見込みによる調整など
	直営診療所施設勘定	1億5,010万円	-	1億5,010万円	一般会計繰入金と国保事業勘定繰入金の調整
後期高齢者医療特別会計（第2号）		8億1,250万円	60万円	8億1,310万円	広域連合への納付金等の実績見込みによる調整など
介護保険特別会計（第2号）		50億7,720万円	50万円	50億7,770万円	新年度に向けた介護保険システムの改修費用の追加など
工業団地造成事業特別会計（第2号）		14億7,700万円	△3,350万円	14億4,350万円	水の郷工業団地造成事業の実績見込みによる調整
病院事業会計補正予算（第1号）	収益的収入	10億100万円	3,900万円	10億4,000万円	実績見込みによる調整
	収益的支出	14億8,800万円	△400万円	14億8,400万円	
	資本的収入	5億2,750万円	△3,224万3,000円	4億9,525万7,000円	
	資本的支出	5億2,750万円	△1,400万円	5億1,350万円	



平成30年度予算案をチェック

# 税金の使い道が決まりました

## 総 額

469億400万円

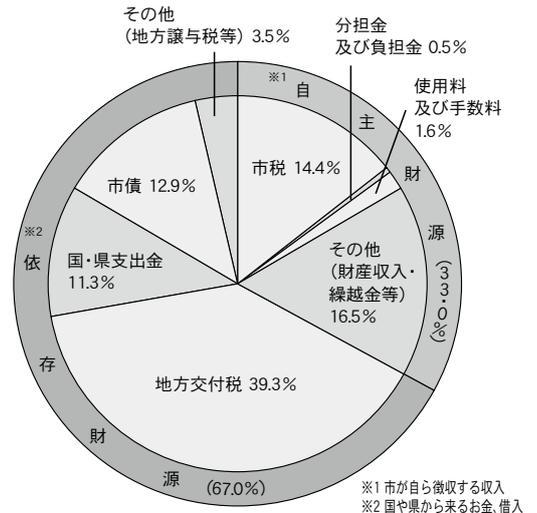
## 一般会計予算

277億7,000万円

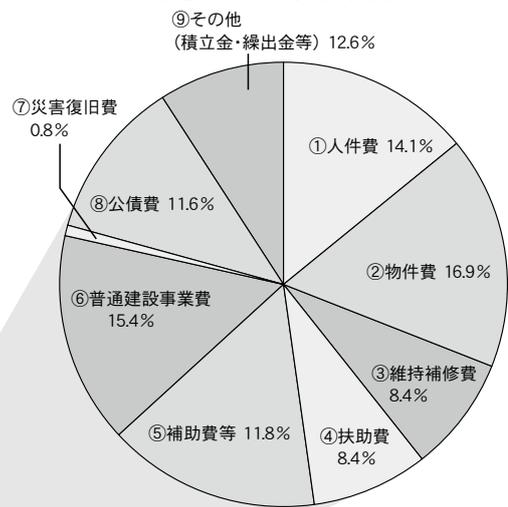
一 般 会 計
277億7,000万円

特 別 会 計	国民健康保険(事業勘定)	35億2,700万円
	国民健康保険(直営診療所施設勘定)	1億2,800万円
	後期高齢者医療	8億2,200万円
	介護保険	48億3,900万円
	工業団地造成事業	8億6,800万円
	企 業 会 計	病院事業
ガス事業		16億7,000万円
水道事業		14億6,900万円
下水道事業		40億4,300万円
計		191億3,400万円

一般会計歳入(財源別)



一般会計歳出(性質別)



### 歳出について

①人件費	市長や職員の給料、議員や非常勤特別職の報酬など
②物件費	非常勤職員賃金、物品購入費、委託料など
③維持補修費	市が管理する施設の修理費や除雪費など
④扶助費	生活困窮者、身体障害者等に対してその生活を維持するために、法令に基づいて支出される経費
⑤補助費等	市が市内の団体などに補助するために交付する費用など
⑥普通建設事業費	道路の新設などの工事費や除雪機械などの高額備品の購入費など(今年度は、新庁舎建設費も含まれています)
⑦災害復旧費	被災した道路や農地などの復旧工事費など
⑧公債費	市の借入金(地方債)の返済元金、利子
⑨その他	特別会計、公営企業会計への繰出金や、基金への積立金など

# 主な重点事業

皆さんから納めていただく税金の使い道を審査しました。  
その中から一部事業を紹介します。

## 1 人口減少問題対策

### Uターン若者定住就職奨励金

事業費 750万円



若者のUターンを応援。市内に居住し、市内事業所等に就職された方に奨励金を交付する。

### 子育ての駅整備事業

事業費 1億1,010万円



総合ビジターセンターかたくりを「子育ての駅」として再生し、親子、地域の方などが集える場所とし、子育て環境の充実を図る。

### 妊婦健診助成事業(拡充)

事業費 2,696万3千円



15回としていた回数制限をなくし、出産までの健診を助成対象とする。

## 2 地域経済の活性化

### 体験型観光メニュー開発補助金

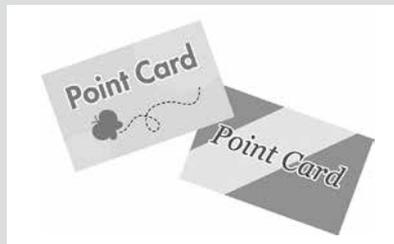
事業費 291万円



体験型観光の大人向けや少人数向けのメニュー開発を支援する。

### 商店街活性化支援事業

事業費 400万円



商工会が行う市内共通ポイントカード導入を支援する。

### ふるさと結基金事業

事業費 3億3,768万1千円



ふるさと納税の、本市の特産品を充実させた返礼品など。

## 3 将来に向けたまちづくりの推進

### 移住定住促進事業

事業費 883万2千円



将来、活気あふれるまちとなるよう移住定住施策を進めており、お試し住宅、空家バンクのほか、イベントやペイントトラックで魚沼市への移住をPRする。

### ICT推進事業

事業費 495万2千円



魚沼市ICT推進計画に基づく事業の実施により、ICT活用能力の向上を目指すもの。タブレット初心者のためのタブレット講習会や、小中学生向けのプログラミング講習会。

### 地域との「絆」推進事業

事業費 4,627万8千円



集落を巡回し、各世帯の状況把握や集落の共同作業の手伝い、困りごと相談など幅広い分野で活動する集落支援員の配置や、冬期間の除雪や買物など高齢者等が安心して暮らせるための集落活動への支援。

## ご当地ナンバー「雪国魚沼」の導入について問う



星 直樹

**答** 住民の意見を踏まえ導入を見送ることとした

**問** 1 国土交通省の定める導入要綱に記載の導入条件である「地域住民の合意形成」は、どのようにして図ったのか。また、広く市民に周知され、市民の声は、十分に反映されていると考えているのか。

**2** 先に実施したパブリックコメントでは何件の意見が寄せられ、どのような意見があったのか。また、その意見をどのように反映させたのか。

**3** 湯沢町を除く3市1町では、パブリックコメント終了後に市民アンケートを実施したが、その理由は何か。

**答** 1 関係市町の住民や関係団体で組織する「新ナンバープレート導入推進協議会」において、関係団体を通じた周知や一定の合意形成が図られること、パブリックコメントやアンケート調査により市民への周知と意見の反映ができたと考えた。

**2・3** パブリックコメントでは126人から251件の意見があり、そのほとんどが否定的な内容であった。それらの意見の反映としてアンケート調査を実施し、結果を踏まえ導入を見送ることとした。



## 今後のJＲ只見線について問う



浅井 宏昭

**答** 観光面においては只見線や食の魅力発信をしていく

**問** 1 只見線を利用した観光ビジョンはあるのか。

**2** 只見線をはじめに観光中心のまちとして考えていくのはどうか。

**答** 1 魚沼市観光振興基本計画に只見線を盛り込んでいる。只見線を活用した地域活性化に向けて、県魚沼市観光協会、だんだんどうも只見線沿線元気会議、国道252号六十里雪わり街道を愛する会等と連携し、取り組んでいく。

**2** 只見線は、紅葉の美しい鉄道路線第1位に選ばれたこともあり、全国的に知名度がある。只見線の魅力を国内外に発信するとともに、食をはじめとした観光資源をアピールし、観光振興を進めていく。

南越後交通バスの廃止区間について

**問** 乗車率が低いことから公共交通のバス(穴沢―大白川間)を廃止にすると住民が不便になる。住民の足がなくなることはあつてはならない。もっと市民に寄り添った考えはできないのか。

**答** 南越後観光バスから、穴沢―大白川間の路線バスの運行を平成30年3月末で廃止するとの意向を聞いていたが、9月末まで継続していたことがなくなった。今後は入広瀬コミュニティバスが運行しているコミュニティバスで対応できないか、検討をいただいている。地域に寄り添う形で、乗車率の推移を見ながら、必要な支援をしていく。

## 雪対策について問う



星野みゆき

**答** 降雪量に応じ、可能な限り実施している

**問** 集中的な降雪や高齢化などにより、自宅や地域の除雪、通勤・通学時の除雪などについて市民の不安の声が上がっている。除雪について問う。

いとの声がある。そこで「自治会ハンドブック」のような手引書を作成してはどうか。

**2** 緊急要望等については、ホームページからメール申請できるようにしてはどうか。

**答** 県と市で歩道の除雪基準が違う点については、市に合わせてもらうよう強く要望しているが実現していない。また、通勤・通学の時間に通行できるように取り組んでいるが、降雪量が多い場合には時間が遅くなることもあり、ご理解いただきたい。

**答** **1** 各種制度は、市報やホームページでお知らせするほか、連合自治会長会議で制度の一覧表を配布している。他市の自治会ハンドブックはわかりやすい内容だと思いが、本市とは条件が違い、自治会ごとにさまざまな事情があるため一律の対応が難しい。

**問** **1** 行政からの多くの事務依頼や担当窓口のわかりにくさなどから負担を感じ、役員不足が生じている。また、日中仕事をしている自治会長は、市役所等に出向くのが難し

**2** 聞き取りが必要な場合もあり、窓口にお越しいただくほうが早く対応できる可能性がある。内容によってはメールで受けられることもあるので、相談いただきたい。

## 全国森林環境税への取り組みを問う



佐藤 敏雄

**答** 詳細が示されておらず、今後の推移を注視する

**問** **1** 全国森林環境税が、森林環境譲与税(仮称)として、前倒しで平成31年度から支給する方針が示された。この税の配分割が、森林面積84%の魚沼市にとって不利であり、関係市町村と連携して、支給率の改善について県を通して国に要請すべきではないか。

用できるかは不明だが、森林資源を活用した取り組みは重要であり、今後も実施していく。

市長所信表明を受けて

**2** この税を見越して、前倒しで森林資源と自然環境を前面に出し、フットパス・エコツーリズム・山ガールの招致など交流人口拡大や移住定住策に取り組むべきと思うがどうか。

**答** **1** 現時点において示されている算定では、不利な条件となる。

**問** 市長は、「人口減対策」が最重点政策として、新規学卒者に定住奨励金・UIJターンへの支援策を出した。市内に働く場がなければ効果は上がらない。何よりも「働く場の確保」に尽きる。このことが解決すれば、嫁婚対策・出生数増加、税収の増加につながる。新たな企業誘致について、市長の意気込みを問う。

**答** **2** 森林環境譲与税(仮称)の活用は森林整備や木材利用促進が中心であり、交流人口拡大などの施策に活

**答** 若い人たちの働く場の確保策にしっかりと取り組む。なお、現在500人規模の雇用がある企業誘致を進めている。市を挙げての誘致、歓迎の体制づくりを進めていく。

# 市長の地域アイデンティティとは



岡部 計夫

**答** 雪をはじめとした自然の恵みがこの地域の価値である

**問** 1 人口減少社会における地方創生戦略の中で、若者の定住を促進する企業誘致などによる雇用の場の確保や、「食まちなうおぬま」での

地元の食材を生かした観光振興策等での取り組みは何か考えているか。

**2** 市で保存している文化財や、地元で活躍している芸術家の作品等を市内の空きスペースに展示するなど、活用して地域振興を図る取り組みを考えてはどうか。

**3** 市の将来像を「人と四季がかがやく雪のくに」としているが、東日本連携フォーラムに参加するに当たり、四季ごとの特色と市長が考えている地域アイデンティティ（地域の個性や地域らしさ）とは何か。

**答** 1 企業誘致のほか、Uータウン者や新規卒者に対する市内企業への就職支援、住宅経費の助成などを行う。観光面においては、農林

業体験と食事を観光と結びつけるほか、食と健康を関連づけた事業を促進し、交流人口の拡大を図りたい。

**2** 目黒邸や佐藤家を広く市内外に向けPRしていく。地元芸術家を通じた地域振興策は、現在のところ具体的な予定はない。

**3** 雪をはじめとした自然の恵みがこの地域の価値であり、アイデンティティであると考えます。恵まれた自然により育まれた農作物や郷土料理、加工品等など「食」に関する魅力もある。それぞれの季節と風土と食の魅力を広く発信していきたい。

# 市長の政治姿勢・信念を問う



遠藤 徳一

**答** 市民や民間の皆様が主体となった活動を支援する

**問** 1 所信表明でコミュニティの活性化施策が重要とした。第一次総合計画から掲げられているが、全市展開に至らない。市長主催の「対話集会」等を通じ働きかけないか。

**2** 「市民や民間企業は行政に頼らず自ら考えて行動に出るべき」とした。市民や企業が自主的に内発的に物事を起こすとき、権限や財源をどれだけ容認できるのか。

権限や財源については、コミュニティ活動支援事業なども含め、さらなる有効策を検討する。

市長の夢の実現について

**問** 1 只見線沿線活性化のための駅の増設とは、どの辺りを考えているのか。

**2** 水力発電の誘致を描いているようだが、どのように道筋を立てるのか。

**答** 1 コミュニティ協議会の設立を地域が自発的に必要と感じていただけるように、出前講座等を通じた周知や、集落支援員等を通じた設立支援を行っている。

**2** これからの時代は、市民や民間の皆様が主体となって考え、行動することが重要である。自発的に活動する方を増やせるよう、地域に寄り添いながら人材育成を進める。また、

**答** 1 特に高齢者が小出病院に通いやすくなるよう、羽根川地区に駅ができればいいと考えている。

**2** 佐梨川の防災を目的とした治水ダムを考えている。しかし、関係者に話をすると、費用対効果が難しいことから、よい回答をいただけない。夢として持ち続けて進めていきたい。

## 魚沼市情報公開請求の結果について問う



大平 栄治

**答** 斎場建設に伴う廃棄物処理手続に問題はない

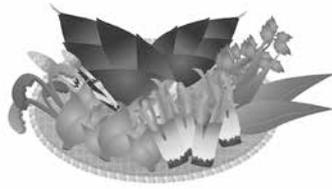
**問** 魚沼市斎場外構等整備工事の主を占める廃棄物処理について「斎場敷地内の土中から出てきた廃棄物だと認定するに至った経緯がわかる資料は保有していません」としたのは、工事費積算の根拠がなく、市民の信頼を裏切る大きな問題である。この事業は既に完了し、検査も合格し請負業者に代金支払いも終わっている。市長として、当時、事業にかかわった職員を処分する考えはないか。

**答** 埋設していた廃棄物の状況は、埋設箇所図、当該写真及び監督員の確認により、当該現場から発生したと認識している。工事検査においても、設計図書とマニフェスト、写真等関係書類を照合して行っている。廃棄物の確認は問題がないものとし、現在、職員を処分する考えはない。

魚沼市監査委員制度について問う

**問** 現在、代表監査委員が空席となっている。監査制度が機能しない極めて異常な事態である。代表監査委員が長期に渡り不在の状態は違法状態であり、その責任は市長にある。どうするのか。

**答** 議会選出の監査委員がおり違法な状態ではないが、早期に選任できるように取り組んでいるところである。



## 魚沼地域の森林整備について問う



大桃 俊彦

**答** 地元産木材の需要拡大、里山利用の促進を図る

**問** 魚沼市の林野面積は市全体面積の84%にあたり、近隣自治体と比較して突出している。また、民有林人工林率では低く自然林が多いのが特徴である。県産材の50%が合板等に加工され、ブランド価値は低い。そこで次の点について問う。

- 1 直交集成材（CLT）・木質バイオマスなどの需要拡大に展開する考えはないか。
- 2 里山を整備し危険生物や農作物被害を防止する策、市民の憩いの場所・ウォーキングコース、新緑・紅葉を満喫する環境を整備する考えはないか。
- 3 平成36年度から導入予定の「森林環境税（仮称）」を前倒しで「森林環境譲与税（仮称）」として導入されるが、魚沼市の具体的な取り組みを問う。

**答** 1 直交集成材については、今後需要の増加は見込まれるが、全国的に製造・加工工場が少なく運搬費が高くなることから慎重な検討が必要である。木質バイオマスについては、新年度から木質バイオマスボイラーを導入するなど利用促進を検討していく。ほかにも地元産木材の需要拡大に向け取り組んでいる。

- 2 里山整備モデル事業により里山整備の促進が図られてきているほか、体験イベントやインスタグラム・育成にも取り組んでいる。さらに里山利用の促進を図っていく。
- 3 国から今後示されるガイドライン等に沿って取り組んでいきたい。

# 東京農業大とどのように取り組むか



関矢 孝夫

**答** 本市の独自の風土を題材に地域振興を図っていききたい

**問** 地域の産業振興、環境保全、人材の育成、伝統産業継承並びに地域づくりのため、相互に連携することを目的に東京農業大学と包括連携協定を締結したが、どのような取り組みを考えているのか。

**答** 日本一の銘柄米の産地であることや、人の生活圏内で最も雪の多い地域で生み出される特産品がある。このような魚沼

の独自の風土に根ざしたものを題材として、生み出す環境、人、組織体制やそれらの活用を通じて地域振興が図られる内容にしたい。



稲刈り

官民連携による地域づくりは

**問** 厳しい財政状況や職員が削減される中で、多様化・高度化する市民ニーズに的確に対応し、市民から満足の得られるサービスの提供を目指すには、官民連携による地域づくりを進めていかなければならない。官民連携を推進するには、市職員と市民の意識改革を早急に行う必要があると考えるがどうか。

**答** 職員には地域活動に積極的に参加するよう指示しており、常に官民連携を意識した事業を行っていききたい。また、市民の皆様にも「行政頼み」の意識を払拭し、市民主体となって新たな取り組みを行っていただけるよう意識改革を図りたい。

# 特別職の給与改定について問う



大桃 聰

**答** 答申結果を尊重したが、1年は据え置きとした

**問** なぜ本則で給料を上げて、附則では時限をつけて現状維持などという複雑な改正案とするのか。

**答** 本則で定めることが原則だが、経済情勢の改善がみえていないことから1年間は据え置き、時限的に附則で規定する。

代表監査委員について

**問** 1 いつまでに選任するのか。  
2 選任できない市長の責任はどうか。

**答** 1 早期の選任に取り組んでいる。  
2 私にも責任の一端があるかもしれないが、選任に向けて努力している。

斎場建設瑕疵担保請求について

**問** 1 弁償金として予算計上しているが、これは債権となっているものなのか。  
2 回収に向けて何をしているのか。

**答** 1 債権証書はないが、債権であると認識している。  
2 年1回の催告状の送付のみである。

**問** 業務委託の随意契約は今後どうするのか。

**答** 公平性・透明性向上の観点から一般競争入札への移行を原則としながら、案件ごとに判断する。

小出郷図書館について

**問** 1 小出郷図書館を何年使うつもりで購入するのか。  
2 小出庁舎跡の利用は考えなかったのか。

**答** 1 何年使うか考えていない。  
2 小出庁舎跡も考えたが、庁舎が空くのが2年先であり、移転候補から外した。

## 所信表明の地域資源の活用を問う



富永三千敏

**答** 体験型観光やモニターツアーなどを行う

**問** 1 食をキーワードとした取り組みのほか、観光誘客増を目指す事業展開はどうか。その効果は何か。

**2** 体験型観光商品の開発支援のための誘客宣伝事業は、どのように進めるか。

**答** 1 自然や文化などを結びつけた体験型旅行商品の開発支援や、体験型観光のターゲット拡大に向けて取り組む。また、JR東日本のキャンペーンや東京オリンピックなど、チャンスを捉えて、本市の魅力を発信していく。

**2** プロモーション動画の活用や印刷物の多言語標記、モニターツアーの実施により本市の魅力を発信し、事業者側の取り組みを後押ししていく。

森林環境税に関連する取り組みについて

**問** 森林吸収源対策のため森林環境税が平成36年度に創設され、それを財源に平成31年度から森林環境譲与税(仮称)が地方に譲与される見込みである。当市も森林整備や林業の振興を図るほかに災害の軽減と防止のため、譲与税を活用し近年被災し荒廃した山林の復旧整備計画の策定の準備をする必要があると思うがどうか。

**答** 森林整備や、そのための人材育成、木材利用の促進に取り組みたいと考えているが、まだ詳細が示されていないため、今後示されるガイドライン等に沿った適切な取り組みをしていきたい。

## 市長の政治姿勢を問う



大屋 角政

**答** 魚沼市の特色ある地域づくりを進めていく

**問** 政治家にとって一番重要な根幹である政治姿勢について問う。

**1** 地域間の「見えない垣根を取り払い」と考えているようだが、地域間格差をなくすと理解してよいか。

**2** 地方創生の仕組みは自治体間格差、都市と地方の格差が広がると考えるがどうか。

**3** 「地域づくりは人づくり」としている。地方の視点から要望事項等を中央に発信していく考えのようだが、具体的に考えていることはあるか。

**答** 1 直接市民と話をした中で、地域によって行政に対する期待度に違いがあることや、旧町村時代の意識や感覚が一部の方々に残っていることを実感し、「見えない垣根」と表現した。なお、市内には地域間格差はないと考えている。

**2** 地域資源を活用した個性的な取り組みにより自治体間の競争が生じていることは否定できない。しかし、それによる格差ではなく、他の自治体とは異なる特色ある地域づくりをしていくという意味である。

**3** 中央目線による全国一律の施策を推進するだけでなく、支障となっている規制が緩和されるよう、また、地方の特色ある取り組みを進めるうえで必要となる新しい制度の創設などを、市長会を通じて要望していく。



# インター名を「魚沼小出」に変更を



高野 甲子雄

答

引き続き検討していく

**問** 「地域ブランド調査」によれば魚沼市の「知名度」「認知度」「食品購入意欲度」とも全国順位は上位であるが、「どのインターで降りればよいかわからない」との声を聞く。観光誘客のネックになっていると考える。「豊科」から「安曇野」へ変えて、観光誘客などで地域の経済効果に成功した事例がある。小出インターチェンジの名称を「魚沼小出」に変更するよう、市が音頭をとって関係方面へ働きかけるべきと考えますがどうか。

本高速道路から聞いている。名称変更により本市のPR効果も上がるので、引き続き検討を進めていく。



小出インターチェンジ

**答** 安曇野インターへの名称変更は、関係自治体が安曇野市のみであったため、膨大な費用はかかったがスムーズに名称変更ができたと聞いている。魚沼市内のインター名を変更するためには、魚沼圏域の自治体全ての同意を得る必要があり、また、膨大な費用負担が必要になると東日

※このほかに「保育所保育の充実」「基幹病院の医師、看護師不足問題」について質問しました。

# 市民窓口業務を民間委託にするのか



大平 恭児

答

現在は考えていない

**問** 新庁舎建設にあわせて市民窓口を民間委託への検討を考えているようだが、そのメリット、デメリットは検討しているのか。国はどうか。

しており、今後、人口減少問題に対して効果的な対策が講じられるよう取り組む。  
地域医療について

**答** 新庁舎での窓口業務の民営化は考えていない。国は、公共サービスを民間企業等が公的主体と協力して担うことにより、選択肢を多様化し、サービスを効率化するよう、国、地方、民間が一体となって取り組むことを目標としている。

**問** 1 将来、在宅医療の受け入れ体制は実現できるのか。訪問診療の不足をどう補うのか。  
2 国に対し、医師不足への対応として緊急的に都市圏から医師を派遣してもらうように要請すべきではないか。

人口減少対策について

**問** 人口減少対策に本腰を入れ、検討委員会をつくり細部にわたる調査や抜本的な対策を取るべきではないか。

**答** 外部有識者や各分野の方々で構成する「魚沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を設置し

**答** 1 現在、在宅医療を担っていただいている医師が高齢化していく中で、後継者については大きな課題である。小出病院では遠隔診療の実証実験を行うこととしているほか、在宅医療の支援体制づくりを進めている。  
2 機会を捉え、国や県への働きかけをしていきたい。

## 総合的な子育て支援策を問う



渡辺 一美

**答** 子育て世代包括支援センター設置に向けて進めている

**問** 産後ケア事業や、産婦健診助成事業が来年度予算に新規に盛り込まれるなど子育て支援事業が拡充され、市長の姿勢を高く評価する。妊娠期から子育て期にわたるまでの支援のため、子育て世代包括支援センターの設置を早期に図る必要があるが、市長はどのように考えているか。

の良好な生活環境の確保に向けた取り組み方針」には、「市町村の避難所関係職員以外の者でも避難所を立ち上げることができるよう分かりやすい手引き（マニュアル）の整備が必要である」となっている。近年の災害多発の状況に対し、避難所運営マニュアルの作成はどのようにしているか。

**答** 切れ目のない支援は大切であり、国が設置目標としている平成32年度に子育て世代包括支援センターの設置に向けて協議を進めている。

**答** 避難所運営マニュアルは作成していないが、現在避難所の見直しについて自治会と協議している。自治会長さん方を中心に住民が主体となって避難所の運営ができるマニュアルを作成し、担当部局でサポートしていきたい。

災害時の避難所運営について

**問** 昨年の水害の際には、自治会長の中には仕事をしておられる方、高齢の方など、避難所開設の対応に少なからず苦慮されたと伺っている。内閣府が公表している「避難所

## 配食サービスの充実に向けて



本田 篤

**答** 多様な実施主体で行われることも大切である

**問** 高齢者向け配食サービスは安否確認、栄養管理など意義は大きいものの、人・資金・栄養面で課題もある。きめ細かいニーズに対応する安定した制度として、まとめてみてはどうか。

求められる図書館機能を勘案すれば、このまま使用していくのは慎重にすべきである。

- 1 公共施設再編整備計画など見直しが必要ではないか。
- 2 多機能型の市民交流施設にすることはどうか。
- 3 中央図書館としての機能と蔵書水準を上げるべきではないか。

**答** 現在は市が委託して実施しているもののほか、魚沼市社会福祉協議会や民間が実施している。多様な実施主体で行われることも地域の絆づくりにとって大切であると考え、地域貢献したい方の活躍の場にもなり、国が目指す「共生型社会」の実現につながっていく。しばらくは推移を見極めたい。なお、民間事業者の活動には、市が干渉すべきものではないと考える。

小出郷図書館について

**問** 現位置の建物を購入するが、

**答** 1 計画では「図書館機能としては不十分」としているが、アクションプランにおいて「直営のまま継続する」との方針としている。現時点において見直しは考えていない。

- 2 今後の参考にしたい。
- 3 仮に中央図書館の整備を検討する場合には、現在の図書館・図書室のあり方を含めて、公共施設再編整備計画を改訂する際に総合的に議論すべきである。

# 総務委員会報告

3月1日

## 1 審査事件

### 請願第1号

高速バス十日町―新潟線の存続を求める請願書

※採択すべきものと決定。

### 陳情第1号

核兵器禁止条約の調印を求める意見書の提出に関する陳情

※継続審査することに決定。

### 議案第18号

魚沼市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について

**問** 答申が出たから改正というが、市長が審議会に諮問し、それを受けて市長が決める話である。それについてどうか。

**答** 答申は県内の経済情勢も見て出されたと思っており、本則の改正については妥当であると判断をした。ただ、この地域の経済状況を見て、現状で据え置くべきと考える。

**問** 答申は毎年出ることか。

**答** 審議会は毎年開催している。

**問** 附則で平成30年度は今までどおりとしているが、これは答申と違うのではないか。

**答** 整合性が取れていないとは思っていない。次年度の報酬については改めて審議会において審議される予定であり、附則での据え置きは1年限りとしている。次年度についてはまた判断をする。

**問** 附則がなくて提案するのであれば筋が通っていると思う。附則で1年間は据え置きながら、市長は答申どおりだというのが、それは住民が納得しないと思う。どう考えるか。

**答** 条例のつくり方として不思議ではない。あくまでも答申の部分は答申として決めていただく。本則と附則を両方ともご審議いただくという形になるので、整合性が図られないということではない。

**問** 予算との整合性についてはどうか。

**答** 本則で考えれば整合性が図られていないことになるが、附則も含めての改正案であり、整合性は図られている。

※賛成少数で否決すべきものと決定。

議案第16号・17号・19号・22号・37号・38号

※原案可決すべきものと決定。

## 2 その他

●二市一町新ごみ処理施設建設予定地を国際大学の敷地内とすること

●ご当地ナンバー（魚沼圏域）について

●穴沢―大白川間の路線バスについて  
それぞれ執行部の説明を受け、質疑を行った。

# 福祉文教委員会報告

1月18日

1 「魚沼市地域福祉推進計画」、「魚沼市障害者計画・第5期魚沼市障害福祉計画・第1期魚沼市障害児福祉計画」について

計画変更年度に当たり、執行部から案が示され質疑を行った。今後、市民に公表し、意見を聴取することとなった。

## 2 その他

入広瀬・守門中学校の統合準備状況について報告を受けた。また、新

年度に堀之内小学校に難聴学級が開設されるとの報告を受け、質疑を行った。

3月6日

## 1 審査事件

### 議案第23号

魚沼市国民健康保険条例の一部改正について

**問** 保険税が1世帯当たり約1万円引き下げる要因は何か。

**答** 新年度から国保の実施主体が都道府県になる。国費の支援金配分方法が変わったのが主な要因であり、県内のほとんどの市町村で引き下げとなった。

**問** 今後の保険税の推移はどうか。

**答** 県の試算では、医療費需要が平成32年度に最大となり、その後は少しずつ減少に転じる見通しだ。国費が今のまま配分されれば、このまま推移するのではないかと聞いている。

**問** 保険税額を県内で一本化しないのか。

**答** 県では今回の改正で調整が間に合わず一本化ができなかったが、今後はその方向で考えているようだ。

※原案可決すべきものと決定。

議案第28号

魚沼市立学校設置条例等の一部改正について

問 入広瀬学校給食センターの項を削除するが、その後はどうなるのか。

答 入広瀬小学校給食調理場として使っていく。

問 入広瀬中学校校体育館等の施設の項が削除されている。解体するのか。

答 当初は解体で考えていたが、地元から利用したい旨の要望があり、今後協議する。

※原案可決すべきものと決定。

議案第35号

魚沼市手話言語条例の制定について

問 手話ができる人を増やすことを考えているか。

答 新年度に職員向け研修会、市民向け普及啓発活動を行う予定である。

問 同時通訳の対応は考えているのか。

答 徐々にではあるが取り組んでいきたい。

※原案可決すべきものと決定。

議案第24号、27号、29号、34号

※原案可決すべきものと決定。

2 その他

● 小出郷図書館の経過について

● 第2期データヘルス計画・第3期特定健康診査等実施計画等について  
それぞれ質疑を行い、引き続き調査することとした。

産業建設委員会報告

1月15日

平成30年度からの魚沼市米需給調整について

コシヒカリの品質向上と需要に応じた米生産を行いながら、飼料用米や高収益作物の導入を推進するための市独自支援について執行部より説明を受けた。

3月7日

1 審査事件

議案第36号

魚沼市都市公園条例の一部改正について

問 施設のバリアフリー等が進んだという話があったが、条例改正に係があるのか。

答 運動施設のバリアフリー化整備

により、面積割合を超過する場合などにおいて必要な整備が行えないといった弊害が生じていたため、各自治体の地域の実情に合わせ運動施設を柔軟に整備できるように、政令の改正がされたと解釈している。

問 法律改正によって魚沼市の中でも変更しなければならぬ都市公園はあるか。

答 ない。将来的にも大規模な運動施設を設ける予定がなく、今のところ支障はない。

議案第39号

市有地の処分について

問 売却価格は、企業が最初に取得したときの単価と同額か。

答 同額だ。

議案第36号・39号・40号

※原案可決すべきものと決定。

2 魚沼市消雪用揚水機器設置事業補助金要綱の改正について

問 補助対象範囲が機器代に限定されたが、消雪パイプとノズルを換えて節水することに補助が受けられなくなるのか。

答 今までも、改正後も補助対象ではない。

問 集落が管理している施設も対象になるのか。

答 集落の集会所等も区長名等で申請いただければ、補助対象となる。

3 水道料金について

魚沼市公営企業等運営審議会において、平成30年度から平成33年度までの水道使用料については改定を行わず、現行の料金単価とすることで了承されたと報告があった。

4 スキー場入込客について

一昨年、昨年は少雪の影響があったが、今シーズンは12月から2月の3カ月で121%の増(11,030人増)しかし、奥只見丸山スキー場は大雪のため12月、1月はマイナストとなったとの報告を受けた。



# 公共施設再編整備 特別委員会報告

12月25日

1 魚沼市公共施設再編整備計画(案)について

昨年6月から9月にかけて行われた市民検討会の結果を踏まえ、庁内の推進委員会等で検討してきた計画(案)の説明を受けた。1月から市民説明会を開催し、その意見をまとめ、3月には正式な計画にしたいと説明を受け、質疑を行った。

1月29日

1 現地調査

南魚沼市大和庁舎にて、庁舎(本庁舎、大和庁舎、塩沢庁舎)の有効活用について市担当職員から説明を受け、質疑を行った。大和庁舎内の空きスペースに設置されている「グローバルITパーク」を視察した。

2 現地調査の総括

●南魚沼市では、人のつながりによりスムーズに庁舎の利活用が運んでいた。

●「昔は人口が増える中で施設をつくっていったのでうまく進んでいたが、現在は人口が減少していく中で施設をどう再編していくか大変難しい問題に直面している」という担当者の言葉が印象的だった。

行政庁舎に民間が入ることは想像つかなかったが、利便性や地域の活性化を考えると複合的になることにより、いろんな相乗効果が生まれると感じた。

3月1日

1 魚沼市公共施設再編計画(案)について

1月16日から2月2日まで市内6カ所で行われた市民説明会での意見を受け、庁内推進委員会で調整した計画(案)について説明を受けた。参加者は少なかったが、出された意見を参考に正式な計画としたいとの説明を受けた。委員会としては今後、市民の意見を尊重しながら、既存庁舎の活用方法を中心に議論していくこととした。

# 議会改革 特別委員会報告

1月9日・2月5日

1 平成29年度魚沼市中学生議会について

検証を行い、実施報告としてとりまとめた。

●上手に質問されていて感心した。アンケート結果によると、関心が高まったという方が8割いる。今回の中学生議会が、行政やまちづくりなどに興味を持ってもらうきっかけになったと思っている。初めて中学生議会をやったことは評価できるとも感じた。

●答弁に専門用語が多く、わかりにくいとの意見があった。もう少しわかりやすくする必要はある。

※次年度は、小出中学校が当番校です。

2 議員定数について

(他市との比較など)

●魚沼市の場合、議員1人当たりの面積は小千谷市の4.5倍あり、今の定数が適当である。

●面積は広いが約84%が森林だ。面積はあまり議論しなくてもよい。議員1人当たりの人口で比較検討すべき。

●地域の議員という考え方は、もうやめていかなければならないと思う。

●市民の意見は削減のみだと思う。

●地域が広く、全域まで目が届かない現状としては、ある程度の議員数の確保も必要だといえる。市民の理解が得られれば現状維持が望ましい。もう少し研究し議論する中で市民の反応を見ながら判断していくべき。

●当市は人口が減っており、なおかつ議員1人当たり人口が少ない。早

急に調査研究し結論を出すのが、市民にとっても立候補予定者にとっても、いいことではないか。

●議会報告会のアンケートでは20人が適当という意見が過半数を超えている。サンプル数は少ないものの、市民の意見として受け止めてよいと思う。

●議会報告会のアンケートの意見をみると、地域の面積や少数意見が反映しづらくなるという心配もあり、20人が適当と考える。

●自分が聞く市民の意見は削減すべきという意見が8割以上である。もっと幅広くアンケートをとる必要がある。

●アンケートだけでなく、そのほかの手法もある。議員定数の算出方法について議論されている専門家もいるので、調査しながら、市民の意見も踏まえ両面で検討すべきである。

●減らすべきだという市民の意見が多いという中で、これまで26人から20人まで定数を減らしてきた。それでもまだ「減らすべき」という意見があるということは、減らしても解消できないということであり、現状維持でもないのではないか。

# 平成30年度会計予算審査特別委員会報告

(主な質疑)

## 総括

新年度に向けた予算の基本的な考え方について

**問** 市民や地域が「良くなった」と実感できるか。

**答** 就任後は、地域の対話集会などを通じ良くなってきたと感じている。

**問** 政策的効果が乏しいものや慣例的な事業をゼロベースから検証するとしているが具体的なものは何か。

**答** 毎年、市の総合計画実施計画を見直している。平成30年度では、施設の大規模改修や維持修繕費等について、計画の見直し、先送りも含め事業費を平準化する一方、子育て・教育環境等の新規事業も計上した。

職員給与と費について

**問** 合計で36億円、平均82.8万円、1時間当たり4,380円になる。高いと思わないか。

**答** 思わない。

**問** 寒冷地手当は合計で2,957万円、平均は6万8千円だ。廃止する気はないか。

**答** ない。

## 一般会計

県河川除草業務委託金について

**問** 前年度までであったが今年度は計上しなかった理由は。

**答** 県が直接実施することになったため。

**問** 市内業者に発注されるのか。

**答** 市の発注や事業内容を踏襲することになっている。

日本スポーツ振興センター負担金について

**問** 市内で競技スポーツ大会開催の予定はあるか。

**答** 現在予定はないが、話があれば積極的に誘致していく。

弁償金について

**問** 瑕疵担保とする工事写真など客観的な証拠が存在しない。架空請求ではないか。

**答** 市の監督員、請負事業者が確認している。

職員研修事業について

**問** 事務処理効率化や市民との協働に役立つ内容の研修の計画はあるか。

**答** 業務改善計画の研修や市民協働の研修もメニューに入っており、希望した職員が受講している。

地域おこし協力隊受入事業について

**問** 非常勤職員の任用形態から委託という任用形態になった。申込者はどうか。

**答** 3名を予定している。委託内容については、必要とする地域との協議により課題解決や地域振興の項目を記載し、成果の検証は、毎月実施予定の協力隊との意見交換会や地域の意見など、総合的に評価していく予定である。



佐藤敏雄特別委員長

子育ての駅運営事業について

**問** 直営のようだが、今後指定管理など民営にする考えはないか。

**答** 新規事業であり、当面は市で運営する。

**問** 常時何名を配置し運営するのか。

**答** 月曜休館の週6日で、5名を雇用し、常時3名体制を考えている。

**問** 利用料は無料か。

**答** 子育ての駅として近隣市と同様に無料とする。

ケーブルテレビ運営事業について

**問** 委託している自主制作番組にコマーシャルを載せられないか。また、DVDにして販売できないか。ふろさと納税にも使えると思うがどうか。

**答** 著作権は市にあり、今後検討したい。

賦課徴収事業について

**問** 電話催告の件数はどうか。

**答** 平均して年間1,900件程度である。

**問** どのくらいの効果があるのか。

**答** 開始年度から毎年徴収率が上がっている。また、督促状発送件数も年々減っている。

生活保護事業について

**問** 生活困窮者自立支援の対象者は何名か。

**答** 約100名を予定している。

**問** 生活扶助受給者は何名いるのか。

**答** 2月の時点で194人となっている。

**問** 人数は減っているが予算増額の要因は何か。

**答** 医療費の増加を想定している。

健康づくり支援事業について

**問** 魚沼元気ポイント事業の報償品をもっと充実できないか。

**答** 主に市内授産施設の製品を活用している。今後充実するよう検討したい。

火葬場管理事業について

**問** 新築したばかりの火葬場修繕費の内容は何か。

**答** 定期点検で火葬炉の内部修繕を予定している。

**問** 斎場周辺の墓地公園整備を考えているのか。

**答** 植樹は行わず、植物の種をまき緑化を進める。

新ごみ処理施設建設事業について

**問** 公民連携を進めるべきであり、新ごみ処理施設建設にPFIの手法を取り入れるよう検討委員会に提言する考えはないか。

**答** どの手法がメリットが高いのか、現在検討している。

里山整備モデル事業について

**問** 事業費が1千万円の増額だが、内容は何か。

**答** 事業内容が人気で参加事業者が増えているため。

**問** 森林環境譲与税により、地域の環境整備の一環として有害鳥獣被害対策や市民の憩いの場・運動の場などとして取り組む考えはないか。

**答** 今後検討していく。

地産地消・販路拡大推進事業について

**問** 海外への販路拡大の取り組みはあるのか。

**答** 幕張で開催される海外バイヤー対象の展示会に出展を予定している。

地籍調査事業について

**問** 平成30年度に実施する面積と調査地点はどこか。

**答** 新規で大石地区と干溝地区で合計1・44kmを予定している。

魚沼市産材活用推進事業について

**問** 木質バイオマスボイラー導入事業化計画は何をするのか。

**答** 寿和温泉の給湯及び温泉水加熱に導入できないか調査するもの。

**問** 魚沼市産材の購入目的は何か。

**答** 入広瀬地区のブナ材を購入し、建築用集材材など商品開発を行う予定。

**問** これらの購入産材は、新庁舎建設で使用するものか。

**答** 新庁舎を念頭に置いたものではないが、販路及び展示PRのひとつとして検討したい。

観光戦略拠点再構築等業務委託料について

**問** 前年度はなかったが内容は何か。

**答** 観光のマーケティング、ブランディング、ワークショップ、インバウンド狙いの調査を行う。

寿和温泉管理運営事業について

**問** 赤字運営が続く寿和温泉の大規模改修の目的は何か。

**答** 老朽化対策と光熱水費節減のための大規模改修であり、また、施設ごとにメーターを設置して施設ごとの経費を明確化することで、将来の運営形態を検討していく。

克雪すまいづくり支援事業について

**問** 多くの市民から使用していただけるよう国・県に対し制度改正を働きかけるべきではないか。

**答** 要望を上げるとは難しい。

地下水保全事業について

**問** 新たに地下水観測井戸を設置する箇所はどこか。

**答** 井口新田地区を予定している。

**問** 現在は何箇所観測しているのか。

**答** 7カ所で観測しており、市のホームページで公表している。

細野橋解体撤去工事費について

**問** なぜ解体工事に4年間もかかるのか。

**答** 非出水期に河道の仮締切を行い、仮設道路を設け、橋梁下面からの解体となるため工期を要する。

河川管理事業について

**問** 昨年の大雨で河川が荒れている。土砂撤去などの予定はあるか。

**答** 地域要望を見ながら優先順位をつけ実施する。

防災対策事業について

**問** 昨年比倍増の防災士の育成人数となっている。目的と成果はどうか。

**問** 地域からの要望が年々増加しており、それに応えられるよう予算措置した。地域の特性を捉えた防災士の活動により自主防災の意識を高揚し、安心安全な地域を目指したい。

**答** 防災士間の連携は図られているか。

**答** 資格取得者向けの研修を毎年行っている。こうした場で連携・組織化を図っていきたい。

**防災行政無線整備事業について**

**問** 主な事業は何か。

**答** 守門、入広瀬地区の同報系防災行政無線デジタル化のほか、新庁舎整備の実施設計費と工事費を計上している。

**問** 屋外においても緊急放送を聞き取れない所が多い。対策はあるか。

**答** 防災訓練等を通じ調査を行い、改善に努める。

**教育支援事業について**

**問** 非常勤職員賃金の増額は、どのような形態の職員が増員になったのか。

**答** 指導主事1名と介助員2名の増である。

**問** 小中学校の介助員の人数が不足しているのではないか。

**答** 学校の実態を把握し介助員の適正な配置に努めており、今後も実態に合わせた配置を検討していく。



**特別支援学校の通学支援について**

**問** 市内の義務教育年齢の児童生徒への通学支援をどう行っているか。

**答** 通学バスの代わりに保護者へガソリン代相当の金額を補助している。

**問** 校外学習等への交通費の支援はどうか。

**答** 市のスクールバスを貸し、運転手などの費用を補助している。

**学習指導センター運営事業について**

**問** 新たな取り組みはあるか。

**答** 新学習指導要領に向けた準備や、若手教職員の育成などに対応するため、指導主事を増員する。

**社会体育支援事業について**

**問** 魚沼コシヒカリ紅葉マラソン大会の補助金はいくらか。

**答** 30万円である。

**問** 予算を増額して市の一大イベントにする考えはあるか。

**答** 市民中心の大会であり、実行委員会で検討すべきと考える。

**問** 参加者の減少、大会内容への不満もあり、検討が必要ではないか。

**答** 実行委員会に伝え、検討いただく。

**競技スポーツ支援事業について**

**問** 市内スキー場を利用しオリンピック、国体等に出場できる人材を輩出していかないか。

**答** 指導者育成等の問題もあり難しい。

**学校給食支援事業について**

**問** 前年度より90万円減となっている理由は。

**答** 児童生徒数の減少と、統一方式米と魚沼産コシヒカリの差額が縮小したことによる。

**国民健康保険特別会計**

**問** 滞納者への制裁として短期保険証、資格者証発行を行っているが、この推移はどうなっているか。

**答** どちらも年々減少している。短期保険証が平成25年度は190世帯280人が、平成28年度は69世帯106人、資格者証は平成25年度182世帯272人が、平成28年度は132世帯175人となっている。

**問** 滞納者に対して強制的な徴収は行っていないか。

**答** 滞納者には納税誓約書を提出するよう図っている。実情に合わせて短期保険証や資格者証を交付している。法令に基づいて適切な徴収を行っていると考えている。

**後期高齢者医療特別会計**

**問** 新たに始まる後期高齢者への歯科検診・口腔指導の内容はどうか。

**答** 76歳と80歳を対象に実施する。

**問** 健康寿命の延伸の観点から重要な事業だが、本当に受診してほしい方に受けてもらえる工夫が必要ではないか。

**答** 広報による周知や、市内の歯科医等に協力いただき多くの方に受診していただけるよう働きかける。

どうしたら

百人一首を覚えられるか



田中  
佐藤千秋さん

ひよんなことから田中の百人一首の会に参加させてもらっています。とても楽しいのですが、自分でもあきれほど覚えられません。

初めて見学したとき、皆さんが上の句が読み上げられると同時に下の句をつぶやきながら札を取っていく様子にびっくりしました。きっと子どものころからやっていたからに違いないと思いましたが、私と同じ50〜60代で始めたとき、またまたびっくりでした。

高齢になり行動範囲が狭くなっても自分の生活している地域であれば、好きな活動に参加して皆さんのように元気に年を重ねることができそうです。

気が遠くなりそうですが、私も皆さんにかたてもらいながら、コツコツ覚えて続けていきたいと思えます。

期待すること

吉田 佐藤鈴子さん

様々なランキングがあり、「住みたい市」で、今まで魚沼市はワーストとベスト両方の上位に入っている。

時代の流れで変遷していったというより、そのアンケートのとり方や分析の仕方でどちらにもなるということかと思うし、魚沼市がそれだけ多くの要素を持つ地域なのかなとも思う。若者の就業の場がなく帰ってこない

と聞く。だが、企業を誘致してもそこで働きたいと希望するとは限らない。今は多種多様な考え方・生き方があり、求めるものも人それぞれだ。仕事だけでなく、求めるものがあれば、人はそこに移動する。果たして、多くの人たちを引き付けるものを今の魚沼市は持っているのか。潜在的に多くのものがあると思う。既に声をあげ、発信している人たちもいる。

その思いが、何らかの形で反映していく市であってほしい。議員の方々がそのかけらを拾い集め、私たちの前に具現化してくれることを期待する。

## 本会議の映像配信をしています

本会議の映像をインターネットで配信しています。パソコンのほかスマートフォン、タブレット端末からも視聴できます。魚沼市議会ホームページにアクセスいただき、ぜひご覧ください。また、会議録も議事事務局、図書館（室）、ホームページで閲覧できます。

## ご意見をお寄せください

魚沼市議会へのご意見をお寄せください。回答を希望される方は、必ず回答を希望する旨の記載をしていただくとともに、氏名及び住所をご記入ください。

なお、回答には、ご意見やご提案の検討や調整のために時間を要する場合がありますので、ご了承ください。

## 議会を傍聴してみませんか



市議会議場は広神庁舎3階にあります。傍聴の手続きは、受付用紙に氏名等を記入するだけです。お気軽においでください。

学校・各種団体の場合は事前にご連絡ください。

定例会は年4回（2月、6月、9月、12月）開かれます。

このほかに、必要に応じて臨時会が開かれます。

日程は、市報お知らせ版、ホームページでお知らせしています。

## あとがき

深雪（しんせつ）に埋もれた魚沼を活気づける各地域のイベントも無事に一段落し、躍動の春が巡ってきました。

雪の中、寂しさを感じていた冬木立が、見る見るうちに萌黄色の若葉となり、四季の移ろいを鮮明にするこの季節の野山こそ、魚沼地域が誇る特色といえる四季の輝きであると思います。待ちに待った季節の到来です。

そして、「冬眠る、山野目覚めて、実り有り」の山菜採りの時期となりました。入山に際しては、熟慮用心をされて事故に「あわない・おこさない・無理しない」の心がけが肝要だと思います。注意し春を満喫したいものです。

さて、このたびリニューアルした議会だよりが皆様の座右に届くころは、百花爛漫の候となることと思えます。執行機関も議決機関も、活力のある、にぎわいのある魚沼市づくりのために、新年度に向かって船出をいたしました。目的に向かい平穏なる航海ができますように、市民の皆様方へますますのご指導と、ご協力をお願い申し上げます。

（大桃俊彦）